

平成 25 年 9 月 2 日

南の風 43

南部ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

ちょっとレポートが遅くなりましたが、インターハイと全中（中学校の全国大会）に付いて書きます。

横浜は、今年『猛暑日』が10日あったそうですが、大分もめっちゃめっちゃ暑かったです。8月の1日から2日にかけて行ってきました。両日共、37度の暑さでした。最近のインターハイは、男女別会場（両会場が離れている）なので男女両方のゲームを観ることができないのがちょっと残念です。大分県中津市のダイハツアリーナで女子の準々決勝と準決勝を観てきました。

何といっても、桜花学園の強さが目立ちました。桜花というと、爆発的なオフェンス力で相手をねじ伏せるイメージが強いと思います。しかし、今年はオフェンス力もさることながら、オンザコートでの5人の選手が、一人一人ディフェンスの役割をきちんとこなし、さらに、協力して守っていた印象がありました。サイズのある選手も、ひたむきに1対1のディフェンスをがんばり、ヘルプやローテーションもしっかりやっていました。また、相手のプレイに対する読みの鋭さも光りました。特に、オフェンスリバウンドを取られた時のダウンボールへの執着心や、ベースラインへのウイークサイドドライブの予測ヘルプなどが印象に残りました。『5人で守ること』の大切さや『読み、予測』の重要性を改めて感じました。

オフェンスで参考になったことは、やはりシュートでした。決勝に残った、桜花学園と昭和学院の両チームに共通していたことは、オフバランス系のシュートの決定率が高かったことです。ジノビリスステップシュート、フローターシュート、そしてギャロップシュートやフェードアウエーシュートなどです。ディフェンスがタイトに来たり、ヘルプサイドのディフェンスがいたりすると、ノーマルなシュートは簡単に打てません。その時に役に立つのがオフバランス系のシュートです。練習の中に取り入れていないとできないのですが、ミニバスの選手にもぜひ身につけてほしいスキルです。もちろん基本的なシュート（ストップジャンプショット、レイアップなど）の練習は忘れてはいけません。しかし、ミニバスの時代にいろいろなシュートを経験することは、将来のキャリアにたいへんプラスになります。この『南の風』でも何回も触れましたが、コーディネイティブ能力の発達にも、オフバランスシュートは適していると思います。ぜひ各チームで取り組んでみてください。

今年のインターハイで感じたことは、やはり基本の『シュートの決定率』と『ディフェンス』でした。普遍的なものなのです。

全中について書きます。東京成徳と昭和学院がいずれも関東大会の1回戦で姿を消してしまい、全中に出場できませんでした。東京成徳の伝統のマンツーマンディフェンスや、昭和学院の赤穂ひまわり選手のプレイなど、全中の舞台で観ることができなかったのは非常に残念でした。男子は地元の浜松学院が、女子は愛知の藤浪中が優勝しました。いずれも東海地域の学校でした。特に女子の藤浪中の1対1のディフェンスの強さと、展開の速い攻撃と確率の高いシュート力は、超中学生レベルでした。来年こそ全中のコートで、神奈川県が活躍する姿を観たいと思いつつ浜松アリーナを後にしました。